

第2回奈良県自転車活用推進会議 議事録

日時：令和4年2月28日（月）14：00～16：00

場所：修徳ビル 大会議室

委員からの主な意見

（1）評価指標の令和2年度実績について

1）指標2・3：自転車の休憩所、サイクリストにやさしい宿等の認定数

（山中議長）

・宿泊施設を出発するサイクルツーリズムは重要で、単に通過してもらうのではなく、泊まってもらうという視点が必要。

（古倉委員）

・サイクリストにやさしい宿やサイクリストにやさしい駐車を単に広報するのではなく、それぞれの宿や駐車場のメリットをもっとしっかりPRする必要があると思う。それぞれの宿や駐車場から出発したらこういう良い点があるという売りになるところを、もっと強調していただければ良いと思う。

（三船委員）

・京奈和自転車道のルート上にトイレがなく、ルートから外れてコンビニやトイレに行こうにも案内がない。サイクリングルートと休憩所はリンクした方が良い。

（山中議長）

・京奈和自転車道の休憩施設については案内方法が重要だと思う。

・ナショナルサイクルルートもトイレが少ないところがある。パンクしたらどうするのか、怖くて走れないというような話も聞く。

・実際に走る人からの意見をどんどんもらった方が良い。

2）指標4：自転車交通量

（三船委員）

・京奈和自転車道の南部の利用者が北部に比べて少ないという話があったが、利用者以前に、そもそも人口が少ない。南部には大阪の河内地方からサイクリストが来ているので、人口を踏まえて考えると上出来だと思う。

3）指標8：自転車通行空間の整備延長

（佐野委員）

・奈良工業高等専門学校付近の矢羽根型路面標示の整備は、延長0.7キロなので車で走ると一瞬で通り過ぎてしまう。自転車が通るから気をつけないといけないという啓発になるかは疑問。

・地元の人であれば何となく分かっている道でも、遠方から来たサイクリストにしたら、矢羽根型路面標示が途中で無くなると分からなくなる。場所によって矢羽根型路面標示がなくなるのは仕方ないが、そこか

ら矢羽根型路面標示に代わって看板はあるべきだと思う。

4) 指標 9 : 自転車の利用率

(藤本委員)

- ・公共交通との連携が弱いと感じる。公共交通の利用促進と自転車の利用促進をともに考えることが大事だと思う。

5) 指標 11 : 市町村版自転車活用推進計画の策定自治体数

(藤本委員)

- ・自転車活用推進計画の策定済みが1自治体は寂しく思う。奈良市などの都市部でも策定していただきたいと思う。

6) 指標 12・13 : 自転車事故の発生件数

(三船委員)

- ・自転車事故構成率が上がったことについては、自転車の乗車台数が減っており、事故件数自体も減っている。構成率では深刻に見えるが、それほど問題視しなくてもいいのではないかな。
- ・車に対する啓蒙が大切だと思う。ブルーラインや矢羽根型路面標示の整備は無いよりあった方が良いが、自転車利用者への啓蒙より、先に車利用者への啓蒙だと思う。
- ・道路交通法は基本的に弱者優先。自転車は車から見ると弱者なので、弱者に対する思いやりを持つ施策ができると良いと思う。

(古倉委員)

- ・自転車事故の構成割合が高くなり、交通安全について相対的に自転車が重要性を増している。もっと事故の場所や発生形態の多い順に重点的に行くとともに、データも示して、なぜそのルールがあるのか、そのルールがなぜ必要なのかなどを示して理解していただいて、安全対策を進めていただくと良いと思う。

7) 指標 14 : 損害賠償保険や自転車保険の加入率

(古倉委員)

- ・自転車事故で自転車側に責任を負わされる割合が高くなっているため、そういう点を強調して、もっと身近な問題として広報すると良いと思う。

(2) 措置の取組状況と今後の取組内容(案)について

1) 措置 8 : レンタサイクルへの支援

(藤本委員)

- ・奈良県はレンタサイクルが弱いと感じる。明日香村ではレンタサイクルが盛んだが、昔の普通自転車(ママチャリ)をレンタルしていると思う。スポーツバイクのレンタサイクルができるように、支援をお願いしたい。

(山中議長)

- ・ガイドツアーを実施している小さな業者もいるかもしれないので、そういった紹介もある。

2) 措置 10：自転車マップの作成

(山中議長)

- ・サイクリングマップについては、電子化を進めてもらいたい。ガーミン、ストラバ、グーグルマップなどの地図アプリがあれば、自転車利用者は見ると思う。
- ・電子化したマップに、休憩施設の情報などがあれば、少なくともどこにあるかという情報は見ることができる。マップを作って印刷するのであれば、そのタイミングで電子化しておくと思う。

(藤本委員)

- ・最近よく使われている地図アプリには、ライドウィズ GPS もある。

(佐野委員)

- ・県庁で色々なパンフレット等を作った時に、できていることを知らない人がどこに置いているかどう知るのが。県民に知らせることに、もう少し努力し、これでもかというぐらい、きちんと広報してもらいたい。

3) 措置 21：自転車通勤の促進

(山中議長)

- ・自転車通勤をしたい人たちに障害があるのであれば、それをできるだけ改善してもらおうような施策を進め、自転車通勤をする方がメリットがあるということを企業に伝えていただきたい。
- ・乗りたい人は乗れる仕組みが必要で、全くないという状況を改善していけるように、進めていただければと思う。

(古倉委員)

- ・企業は事故を心配していると思うが、生産年齢人口では車の方が自転車よりも事故ははるかに大きく、また、車通勤での事故の方が自転車通勤での事故に比べて割合が高い。企業が心配しているところに対して説明すると良いと思う。

(三船委員)

- ・10 キロ以内なのに自転車通勤していない人たちに、自転車に乗りましょうと言っても乗らない。ロードに乗っていない人たちに、こんなに良いですよと話しても乗らないと思う。乗ってくれる人に乗りやすい環境が必要だと思う。

4) 措置 25：高齢者の自転車安全対策

(古倉委員)

- ・高齢者の自転車の利用促進については、健康寿命の延伸や免許返納後の買い物などの移動手段の確保の点からも重要になってくると思う。人口当たりの自転車事故は高齢者と非高齢者はほとんど同じなど統計からも高齢者の自転車利用が危険ということはないので、前向きに考えてもらいたい。

(佐野委員)

- ・高齢者は、自転車交通にどれだけの規則があるかあまり知らない。色々なことが規則化されてきたが、

積極的に接する機会もない。どのような規則があるのか、県でどういう取り組みをしているのか、どう知らせていくかがすごく難しい。

(藤本委員)

- ・高齢者向けの安全講習だけでなく、利用促進も考えてもらいたい。車の免許返納後、自転車に乗り換えられる方向けの安全講習と利用促進が必要だと思う。e-bike や三輪、四輪など、色々な自転車があるので、自転車がこれだけ使えるという啓発が必要だと思う。

5) その他

(古倉委員)

- ・措置の中でどれを重点にするかなどのメリハリがあっても良いと思う。
- ・安全啓発に関しては、内容もしっかり効果のあるものであることが重要。なぜそのルールが決まっているのかなど、内容がしっかり記憶に残るように、根拠を説明して、充実を図ってもらいたい。

(3) 県内サイクリストへのヒアリング結果を踏まえた今後の方向性(案)について

(山中議長)

- ・ロードに乗っている人とそれ以外の人たち、また、性別でも違う可能性があるので、もう少し分析を細かくする必要がある。
- ・レンタサイクルを借りて観光したい人はいるが、色々な情報を事前にどう収集するかが難しい。走ったことのある人は、ルートを見れば分かるが、そうでない人からすれば、どれだけ事前情報があるかが鍵になる。どういう状況なのかを、いかに伝えるかということが大事だと思う。
- ・南部はロードバイク、中心部はポタリングの利用が多いと思う。奈良県内は本当に北部と南部で違う。
- ・民をつないだ認定制度を実施するのも良いかもしれない。宿泊施設やレスキューしてくれる自転車屋など、利用者が増えていくのと相互して、そのスパイラルで進んでいければと思う。
- ・お金を落とす仕組みが重要になる。

(古倉委員)

- ・誰を狙うのか、ターゲット層をどうするのか、ハイユーザーも狙っていく必要はあると思うが、一番多いのは日常的に利用している層なので、この層が、観光で来て、現地ではレンタサイクルなどで自転車に親しんでもらうことで、サイクルツーリズムのすそ野の拡大を進めていくと良いと思うので、少し整理した方が良い。
- ・大阪で実施した調査では、一人連れより二人連れ、非ファミリー層よりファミリー層の方がお金を使っているという結果が出ている。ターゲットについては、バランスを取って考える必要があると思う。
- ・サイクルコースで何を重視するかについて、上級者は自然や景観で、歴史や文化などは二の次だと思うが、初級者はむしろ逆になると思う。利用する方の気持ちを考えてコース設定できるかが課題になると思う。
- ・このために、ヒアリング結果について、どのような層がどのような意識やし好をもっているか、消費金額に差が出ているかなどもう少しくロス分析をしていただければと思う。

(佐野委員)

- ・ヒアリング結果は、ハイユーザーとローユーザーとのすみ分けができていない。もう少し区分けをはっきりしないとイケない。
 - ・サイクリストの方が南部に行くのは、奈良の南部の景色がすごく魅力的だからだと思う。景色の良いところで休憩できて、食事やお茶も楽しめるところがあると良いと思う。
 - ・来る人に楽しいという気持ちを起こさせる場所がサイクリストにも必要だと思う。県の担当者からも声をかけて、住民の人たちをもっと巻き込んでいく施策を取ってほしい。
- (藤本委員)
- ・一般層とサイクリスト層を分けて考えた方が良い。サイクリスト層では、吉野や十津川の方に魅力を感じる。特に南の方では、走りたい向けの人を呼ぶとか、そういうことも考えたらと思う。サイクリスト層は、長距離にした方が、途中で宿泊してくれるので良い。
- (三船委員)
- ・ヒアリング実施箇所が平野部の北の方に集中している。他所から来た人が奈良県を知るのであれば、平野部で寺社仏閣を巡ることが多いと思うが、奈良県にしかない景色を求めると平野部から外にどんどん出ていくので、ヒアリングのポイントに南の方の地点があると良かったと思う。ターゲットによっても違うと思う。

(4) 自転車利用ネットワーク整備手法(案)について

(佐野委員)

- ・矢羽根の整備は県で進めて、それを周知していく施策を取っていただきたい。
- (三船委員)
- ・奈良県には左折可の交差点が多く、自転車にとっては危険なので、何か自転車に対してもう少し考えてもらえるとありがたい。
- (山中議長)
- ・左折可の問題は、よく議論になっている。海外では、左折レーンと自転車を手前で入れ替えてしまう例が多いが、それができる自転車利用者がそんなにいるのかという問題がある。

以上